



伝統行事「白（水）かぶり」のお知らせ

上記の件について、今年も三池地方を襲った大火事以降に始まったと言われる火災よけ祈願を由来とする 白（水）かぶりの行事を下記の通り行います。

- 日時 平成 30年 1月 8日（月曜日）成人の日 18時
- 会場 三池本町祇園宮

「白（水）かぶり」由来

私達の郷土「三池」は、古くから肥後と筑後柳河を結ぶ「三池街道」の宿場町として栄えましたが、元禄十二年の「三池火事」をはじめ、大火の記録の多い町でもありました。

明治元年（1868年）三池上町・寺町の80戸を焼失した大火のあと、火災よけの祈願としては始まったのが、「三池の白（水）かぶり」と伝えられ、今日に至っています。

この行事は、大寒の正月十五日に、白装束に身をかためた上町・寺町の氏子達が三池弥剣神社（祇園宮）の氏子中（三池第一、材木町、神田脇）の家々を隈無く二度駆け巡り、三度目には法螺貝の音に励まされ、うず高く積まれ、水を灑いだ白を豪快にかぶり捨て、あるいは家々の門前に置かれた白やバケツをかぶり氏子の火災除けを祈りながら駆け抜けていったものだそうです。

大寒のみぞれのなかを白装束の子供達が、氏子中の火災除けを念じながら、けなげにも走る様は、また別の趣があったことと思います。年齢の違う子供達が同じ祭りに参加したという体験は、のちに同じ地域社会に暮らすものにとって、貴重な共通の思い出となったことでしょう。

初めは青壮年を中心とした行事であったのが、次第に新1年生から小学校高学年を中心としたものになりました。

だが、交通事情の悪化にともない、氏子中巡行が危険となり、「白（水）かぶり中止」のやむなきに至り、昭和58年、四半世紀を経て、伝統行事の保存を願う神社保存会と上町寺町の氏子を中心に、祇園宮境内において「白（水）かぶり」を復活させた次第です。

復活させて、35年経過しますが、今ではすっかり定着をし、奇祭故に大牟田市民はもとより遠方からも多くの見物者やカメラマン、あるいは報道陣で溢れ、毎年テレビ放映されるまでに至りました。

以上

伝統行事「白（水）かぶり」のお知らせ

上記の件について以下のプログラムで今年も実施しますのでお知らせします。

○ 日時 平成30年1月8日(月曜日)
午後6時～

○ 会場 大牟田市三池 三池本町祇園宮

三池本町神社 会長 中野 義治
電話自宅 0944- 51-8666
携帯電話 090-4983-9133

『水かぶり』プログラム

平成30年1月8日(月曜日) 午後6時
司会進行 (池田)

1. お祓い 関係者全員整列
2. 神社会長挨拶 神社会長
3. 来賓祝辞 大牟田市長・大牟田消防署長
4. 一般見物人祈願
白の前に「賽銭箱」と「お札」の準備。 壮青年者で対応。
5. 子供「水かぶり」
 - ①さか水 新1年生
法螺貝の合図でかぶる (以下同じ)
 - ②低・中・高学年別(3班編成)
最高学年連続かぶり
(中央前方と四方にバケツ準備)
6. 壮青年「白かぶり」
 - ①重ね白かぶり
 - ②お祝白かぶり(今年成人式・厄入り祝・昨年結婚式)
 - ③各種白かぶり……(一人ずつ登場)
 - ④大白かぶり……約78kg(2～3人挑戦、かぶれる人が登場)
 - ⑤飛び入り白かぶり(危険なので脇で補助する)
 - ⑥一斉白かぶり(2班編成でかぶる)
7. ドンドン焼き(3町内公民館長点火)
8. ドンド粥(ドンドン焼きと並行して進行)
9. 挨拶(主催者)
10. 一本締め(司会進行者)